



群馬県をはばたかせるために

群馬県知事 大澤 正明

県民が安全で安心して暮らせるよう全力を尽くす―景気や雇用情勢が悪化している今こそ、群馬県の将来を見据えて思い切った対策を講じる必要があります。そこで、平成二十一年度一般会計当初予算は総額六千六百十億七千三百万円、前年度に比べ一・二%増の積極型予算としました。

次の三つの柱を中心として景気・雇用対策にしっかり取り組むとともに、基本政策「はばたけ群馬構想」の実現に向けて着実に前進していきます。

「県政改革の一層の推進」

歳入では、県有施設命名権や利用予定のない県有地の売却、県庁舎内・公用車への広告表示など、新たな自主財源確保に積極的に取り組んでいます。

歳出では、職員数を削減するほか、すべての事業の徹底した見直しを行い、経費削減を目指します。

組織改正では、緊急性の高い行政課題に対応するために「介護人材確保対策室」や「ぐんま県民労働相談センター」などを新設しました。

「県民生活の安心・安全の確保」

医療では、十月から子どもの医療費無料化を入院・通院ともに中学校卒業までに拡大することとしました。所得制限や一部負担金を設けない方式での実施は、都道府県としては全国で初めての取組みとなります。

また、群馬大学と共同で整備を進めている重粒子線治療施設が今年度中に治験を開始するほか、ドクターヘリの通年運航や新型インフルエンザ対策などに取り組みます。医師確保対策では、予算額を前年度に比べ約二・五倍に拡充し、産科や救急医療機関の医師の処遇を改善するとともに、修学資金貸与者の枠を拡大していきます。

介護では、人材確保のために、県独自の資格制度創設や介護の仕事の魅力PR、職を離れている有資格者の再就業支援などを行います。

教育では、昨年度の小学校一・二年生での三十人以下学級に続き、今年度は三・四年生で三十五人以下学級を実現しました。

また、昨年度に始めた尾瀬学校は、参加した児童・生徒、教職員から高い評価をいただいております。今年度は参加する児童・生徒数の大幅な増加を見込んでいます。

環境問題への取組みでは、地球温暖化防止条例の検討を進めるとともに、スーパーなどでのレジ袋有料化に向けて、市町村や事業者、消費者団体などと連携して取り組んでいきます。

さらに、地域における新エネルギーの導入を促進するとともに、県としても率先して太陽光発電施設の設置やエコカーの購入を進めます。

このほか、商業施設などの車いす駐車場の適正利用を進めるため、条例に基づくものとしては全国で初めてとなる「パーキン

グパーミット制度」を創設します。

「県内経済の活力向上」

中小企業対策では、単独公共事業費を大幅に増額して企業の仕事量を確保するほか、経営サポート資金融資枠を七百億円確保して資金繰りを支援するなど、県独自の緊急経済対策を実施します。

雇用対策では「県雇用対策本部」を立ち上げ、国や市町村、関係団体と力を合わせて取り組んでいくとともに、二つの基金を設置して雇用創出を目指します。

群馬県のイメージアップでは、ぐんま総合情報センター「ぐんまちゃん家」(東京都中央区銀座)を中心に、観光客や企業の誘致に向けて群馬県の魅力をアピールするほか、昨年度就任した「ぐんま大使」により、県内外に向けて観光宣伝を行います。

農業では、本県農業の基幹部門である野菜の生産振興の取組みを強化するとともに、県産農産物のブランド化を進めます。

林業の振興では、森林吸収源対策としての間伐を計画的に進めるほか「ぐんまの木」家づくり支援事業」を拡充して県産木材を使用した住宅の建設を促進し、木材需要の拡大に努めます。

一刻も早く、県内の景気や雇用情勢の回復が図られるよう、県政改革を進めながら、県民生活の安定と群馬県の発展のために、全力で取り組んでいきます。